平成２９年度　岡山県立勝間田高等学校　学校評価書

１．自己評価について「平成２９年度の学校経営目標毎の評価」

（１）経営目標「基礎学力の向上」について

・「朝学習」全クラス実施、外部模試の年２回導入（２年目）によりやや落ち着いた学習環境づくりができている。

・「ユニバーサルデザインを意識した授業改善の取組」をテーマに公開授業（６月２１日）を実施した。年間を通して授業改善の指標となった。「わかりやすい授業が多い」97.6%（前年比+8.7%）

（２）経営目標「望ましい生活習慣の確立」について

・問題行動による特別指導件数は 55 件（前年 54 件）であり、やや落ち着いた学校運営ができている。

・『勝間田スタイル（学校生活上のスタンダード）』の導入は２年目となるが、マナー、服装指導には課題がある。

・保健室利用者数は 813 件（前年比－182 件）。生徒の健康管理の観点から「生活習慣の改善」は次年度以降も継続すべき取組事項と捉えている。

（３）経営目標「将来像をもたせる」について

・外部模試を年２回導入し、基礎学力成績の推移について実績を管理し、面談等に活用できるようになった（２年目）。

・県指定高校ＰＵ事業「木材資源を活用した地域振興に関わるカリキュラム研究」において人材、地域資源を活用した実践を蓄積した（２年目）。

（４）その他

・「活力ある職場づくり～健康で生き生きと働くことのできる職場を目指して～」組織マネジメント会議（ＳＷＯＴ、取組の重点化）の実施。朝の有効活用のため職員朝礼を週５回から３回に変更（継続）、経年研教員を中心にＯＪＴチームを２チーム編成。やりがいのある業務、仕事への従事を目指し勤務負担感の軽減を目指した。

２．学校関係者評価

（１）学校評議員会

【開催日】第１回（6 月 26 日）第２回（11 月 28 日）、第３回（3 月 5 日）

【委員】

小山　京子（美作大学　准教授　服飾・福祉）

佐原　美恵子（勝間田高等学校ＰＴＡ代表）

安東　章治（元美作市議会議員）

池田　俊昭（勝英農業普及指導センター総括副参事）

三好　和広（勝央町役場総務部総括参事）

a) わかりやすい授業づくりについて、学校自己評価の分析から生徒回答と教員回答についてやや意識の差があるが、生徒に寄り添った学校運営をさらに推進するべきとの助言があった。

b) 岡山ノースビレッジへの植栽、勝間田駅前の美化活動、農業協同組合での生徒発表等の生徒の地域での活動に対して、評価をいただくと共に、取り組みの改善やもっと学校広報としてのＰＲ活動を推進するべきとの助言があった。

c) 本年度の取り組みである岡山創生高校パワーアップ事業「木材資源を活用した地域振興に関わるカリキュラム研究」について、“美作ヒノキまくら”の製品化への取り組みについて助言があった。

d) 本年度着手した取り組みである「ドラゴンフルーツジャム」製造について、地元食材についても研究対象にしてはどうか等助言があった。

e) 学科の再編について、その方向性について経過報告をした際には、概ね理解いただき賛同を得た。中でも、地域を教材フィールドした学びを特徴とする点や、普通教科の習熟度別編成について評価をいただいた。

（２）学校推進協議会

【開催日】第１回（11 月 10 日）、第２回（2 月 5 日）

【委員】

会長　水嶋　淳治（勝央町町長）

顧問　渡邊　吉幸（岡山県議会議員）

顧問　竹久　保　（勝央町教育長）

顧問　光井　一恵（勝央中学校長）他３０名

【議題・報告】

第１回

（報告）「勝間田高校の学科再編案について」

（報告）「農業高校を総合学科に改編した事例～宇部西高校～」

（意見交換）「本校の学科再編案について」

第２回

（報告）総合学科先進校視察（静岡県立藤枝北高校、天竜高校）

（意見交換）勝間田高等学校の教育推進について

コミュニティガーデンの有効利用

デュアルシステムの導入について

本校における学科再編案について概ね賛同をいただいた。学校の魅力化を図るためには、学科の再編後も専門教育が後退することなく進路を含めて一層に教育推進が求められる。地域の資源を活用して、地元とともにある学校として成長し、地域人材の育成を図ることを期待するという意見を多方面からいただいた。

３．学校自己評価アンケート（資料参照）

「わかりやすい授業が多い」、「先生はよく相談に乗ってくれる」、「自分は社会のルールやマナーが守れている」、「自分は環境美化に努めている」など前年比＋５％程度で満足度の高い評価がなされていた。教員の授業改善の取組が評価されたことや、生徒指導に対す

る生徒理解、保護者協力がややすすんだことが考えられる。ボランティアの取組、環境美化など評価はやや改善され、委員会活動の活性化の成果といえる。

４．まとめ

本年度を概観し、ユニバーサルデザインの視点に立つ授業改善の取組や、ソーシャルスキル教育の推進がやや進展し、生徒の学校生活にやや落ち着きが見られるようになった。問題行動の件数は大幅に改善された前年度並みで推移し、クラス経営や保護者対応で悩みを抱える機会は減り、教員の業務負担感はやや低下した。教員が、中期的な展望をもった学校経営への参画意識をもつようになれば学校は年々進化できると考えており、今年度の状況を維持しながら、地域のニーズに応える学校運営を継続したい。

次年度課題、取組は次の通り。

・「勝間田スタイル（生徒指導スタンダード)」の見直しとその運用の改善を講じる。
・社会人基礎力の一部としての基礎学力を身につけさせる取組、工夫をさらに精緻に計画し、戦略的に推進すること。特に朝学習の工夫や、学力テストの面談等での有効な活用について検討し改善する。
・生活習慣の改善に関する取り組みをさらに推進する。

５．参考資料

資料　　３０年度に向けた前年度総括資料
　　学校自己評価アンケート
　　本年度の研究および成果、報告等